



テイラー・ハックフォード監督の下、2大スターのパッションがぶつかり合うこの春最高の話題作。ワーナー・ブラザーズ映画配給。丸の内ピカデリーほか全国松竹・東急系にて公開中。

“With you, always.” 「君といるときは、いつも」

映画は殺し文句の宝庫だ。

人生の縮図のようなセリフを原語で楽しむこの新連載、
第1回はラッセル・クロウとメグ・ライアンという
超大型カップリングの殺し文句集。

文=中野香織



先月号まで映画のなかのファッションのページを書いていた。ご愛読まことにありがとうございます。突然ですが、今月号からは映画のなかの英語のセリフを紹介するページになりました。

わたしは英語教師もやっています。犬の散歩もパイプの修理もいたします、の便利屋みたいですが。映画を教材にして大学生に英語を教えています。外国語を覚えようとして、ぶつ切りの単語やフレーズを頭に詰め込んででも徒労感が大きいばかり。言葉をとりにくく状況をまるごと視覚的・音楽的に心に刻みつけるのがいちばん。それが感情を揺さぶるような状況であればなお効果的です。現実生活で定期的にこんな状況を作りだすのは至難の技ですが、映画ならばその宝庫。というわけで映画を教材に……というのは大ウソで、ほんとはただ楽しいからやっています。

失礼しました。そこで、眠れる義務教育英語の知識をもっと具体的に生かしたい、あるいは英語なんかどうでもいいけど日本語に応用できる気の利いたセリフがあったらいただきたい、という方々を視界に入れて、毎月ピックアップした映画のなかから殺し文句 (clincher) や決めセリフ (punch line) を紹介していくという誌面レクチャーをやってみようというわけです。

前口上が長くなりました。今月の映画です。「ブルー・オブ・ライフ」。

タイトルの「生きている証拠 (proof of life)」とは誘拐コンサルタント会社の業界用語。ラッセル・クロウが演じるのは、ロンドンのKidnap and Ransom (誘拐身代金) 企業に在籍するプロの人質交渉人テリー。世界各地を飛び回ってテロリストに誘拐された外国人の人質解放交渉にあたるのが彼の仕事であります。

プロの交渉人だからして当然、説得術に長けています。ところがそんな手ごわい男を説得してしまう

女がいます。メグ・ライアン演じる人妻アリスです。

夫ピーターが異国のゲリラに誘拐され、交渉人としてやってきたテリーを頼りにしたのもつかの間、経営危機に陥ったピーターの会社が保険をキャンセルしたことが発覚、テリーは仕事を離れざるをえなくなってしまいます。ホテルから空港へ向かうテリーをさんざん責め立てたあげく、効なしと知るや一転、哀願路線に変えたアリスがとどめで放つ殺し文句がこれ。

'You are the first, you are the only person I've met who knows what they are talking about.'

(「あなたは心から誠実に話をしてくれた、最初の、しかもただ一人の人なのよ」)

絶望の底にいるときに口先だけのなぐさめを言うような奴には「おまえ、自分の言ってることがわかってんのか?」と言い返したくなるのは英語圏でも同じ。**'Do you know what you are talking about?'**です。だからこそ「自分が言ってることをわかっている人」という英語のセリフが、相手の心をぐらっとさせる殺し文句になっています。「最初の、唯一の人」ってのは往々にして30人くらいいるものですが、メグのあの目でこれを言われちゃあ、ラッセル・クロウ、ひとたまりもありません。結局、引き返してタダ仕事に命を張る羽目になるのであります。

アリスとの関係においては、テリーだって受け身に回ってるばかりじゃない。いよいよピーター救出に出陣、という時になって、二人の間でこんなセリフが交わされます。

'Alice: I've never seen you nervous.'

(「あなたが緊張しているのをはじめて見たわ」)

'Terry: With you, always.'

(「君といるときは、いつも」)

簡潔にしてきわめつけの殺し文句でありましょう。実際に使うのは恥ずかしすぎますが。

最後にもうひとつ。ピーター無事救出、の晩にいよいよ別れとなったアリスとテリー。心情的には「カサブランカ」のラストシーンが重なります。ストレートに愛のことばを告げるわけにいかないアリスは、テリーにこう言うのが精一杯。

'Just tell me you know how much you mean to me.'

(「あなたの存在がわたしにどれだけ大きな意味を持っていたか、わかっていると行ってちょうだい」)

回りくどい分、万感胸に迫るではありませんか。それに対するテリーの答えも渋い。

'So we are even.'

(「じゃあ、おあいこだ」)

自分も同じように思ってた。アリスを見送るテリーの表情が切ない。

主演二人のスクランダルが映画に先行してしまい、宣伝効果を発揮しすぎてもう見なくても十分、という気にさせられたかわいそうな映画ですが、なかなかどうして、緊張感みなぎるアクション・シーン満載の男くさいドラマです。ロマンティックなシーンは実は少ないんですが、紹介したようなスタイリッシュなセリフが強い印象を残します。

というわけで、初回は軽くウォーミング・アップでした。また来月 (一礼して退場)。